

VCCI だより

No.118 2015.10

目 次

ご挨拶	一般財団法人 VCCI 協会 代表理事	川上 景一..... 1
寄書	最初の一步	大松 裕昭..... 2
委員会等活動状況		4
● 理事会		4
● 評議員会		4
● 運営委員会		5
● 技術専門委員会		5
● 国際専門委員会		6
● 市場抜取試験専門委員会		6
● 教育研修専門委員会		7
● 広報専門委員会		8
● 測定設備等審査委員会		9
● 委員会等活動報告 略号集		10
連載 第2回		
CISPR (国際無線障害特別委員会)の歴史 (その1) 徳田 正満		12
情報通信月間 VCCI セミナー報告		16
APEMC 2015 Taipei 報告書		19
2014 年度 VCCI 事業報告会開催報告		22
VCCI 協会創立 30 周年事業ご案内		27
2014 年度市場抜取試験結果		28
2015 年度市場抜取試験実施状況		29
事務局だより		30
● 会員名簿 (2015 年 5 月~7 月)		30
● VCCI 2015 年度スケジュール		32
● 適合確認届出状況 (2015 年 5 月~7 月)		33
● 測定設備等の登録状況		34

ご挨拶

一般財団法人 VCCI 協会 代表理事
川上 景一



本年 6 月 22 日に、一般財団法人 VCCI 協会の代表理事に選任されました。

前任の長谷川英一代表理事の後任として、微力ではございますが、代表理事としての責務を果たしてまいりますので、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

VCCI 協会は、情報技術装置の妨害波による障害を抑止し、電子・電気機器を利用する我が国の消費者の利益を擁護していくことを目的として活動してまいりましたが、本年 12 月をもちまして、前身の情報処理装置等電波障害自主規制協議会の設立から数えて、30 年目という節目を迎えます。これも関係省庁のご指導と 1,163 社の会員各位のご支援・ご協力の賜物であり、心からお礼申し上げます。

近年、スマートフォン、タブレット端末などが一般に普及してきました。新たにウェアラブル端末なども出てきており、電波を使って個人がいろいろな情報を利活用する機会がますます増えてきております。最近、IoT (Internet of Things) や CPS (Cyber Physical System) という言葉をよく目にしますが、社会のあらゆるものが、電波を利用してインターネットで接続され、センサーと連動して新たな利便性や価値を生み出す社会的な取り組みも始まろうとしております。

このようなイノベーションを支える電波を有効に利用するためには、妨害波を抑えなければなりません。当協会は、今後ともしっかりと協会活動を進め、妨害波による障害の抑止に努めてまいります。

昨年 1 月に、電気用品安全法の改正技術基準省令が施行されました。今後、電気用品の大括り化の検討が進められ、対象製品の拡大が見込まれています。この政令の改正は、情報技術装置の電磁波規制に関しても少なからず影響があるものと考えます。また、国際規格である CISPR 規格を日本に適用する整合規格の整備を行う小委員会の事務局を本年 7 月より当協会が担うことになりました。当協会は、わが国のルール整備にも貢献してまいります。

当協会の活動に対し、電子・電気機器を利用する消費者の皆様からご理解を賜りますとともに、関係省庁並びに会員各位の一層のご支援・ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

以 上

最初の一步

大松 裕昭

CCRC という言葉をご存知ですか。米国で高齢者が移住し健康時から介護医療が必要となる時期まで継続的な生活支援サービスを受けながら生涯学習や社会活動に参加する共同体のことで、1970年代に始まりすでに2000ヶ所75万人が参加しています。

この6月には東京圏の高齢者の急増に備えこの日本版とも言える全国41の地域を移住先候補として発表し、高齢者の移住を積極的に推し進めようという提言が日本創成会議でまとめられました。

私はこうした状況を先取りして考えたわけでもなく昨年5月に35年近く住んでいた千葉県の佐倉市から長野県軽井沢町に転居しました。ことの発端はまだまだ定年はずいぶん先のことと思えるほどのころ、居酒屋での友人との話で彼は八ヶ岳での老後を考えているとのこと、すでにかなり具体的な準備もされているとのことで、同じように定年後は豊かな自然と時間に追われない生活をただ漠然と考えていた私自身も少し本気で老後の生活を考えるようになりました。とはいえ見学に行った八ヶ岳の素晴らしい自然も、生活をするとなると様々な困難が予想され、一時的な別荘暮らしではなく定住するにはそれなりの都会のファシリティーが近場ないと仙人暮らしのようで老夫婦には厳しいという現実でした。帰路立ち寄った軽井沢ではこうした不安が少ないように思いました。東京24区と揶揄されるほど都会のイメージの強い避暑地ではありますが、田舎暮らしをしたことのない私達には馴染みもあり安心でもありました。

東京から150キロ、車なら関越道を経由して上信越道で2時間、特に北陸新幹線で1時間余りというのは、交友関係のほとんどが東京圏である私達には魅力的でした。そして土地を購入してから8年、退職と同時に計画どおり昨年の春まだ浅い軽井沢に3匹の老犬を連れて移住したわけです。

軽井沢の四季は本当に美しい。残雪の間から新しい命が芽吹き季節のぬくもりを告げる春、深い森や浅間山からの涼風でクーラーを必要とせず快適に過ごせる夏、喧騒から落ち着きを取り戻した山や森が色づく秋、冷たい空から舞い降りてくる粉雪とイルミネーションの輝きで人々を暖かく迎え入れてくれる冬。この一年の四季折々の変化は新鮮な驚きに満ちたものでありました。冬は特に魅力的で、厳寒ではありますが雪は少なく晴天率が高く空気が澄んでいるので息が白く濁らない。早朝の朝日を映した空が鮮やかな紅色に染まる風景は息をのむほどに美しいものです。また新月の晴れた真っ暗な夜空に金星が輝き天体ショーが始まります。ひさしく見ていなかった天の川、星座を見つけるのが難しいほどの多くの星は何よりの楽しみでもありました。

私の住まいは軽井沢の三笠地区の北側で、終戦前夜、日本政府のポツダム宣言受諾を打電した旧スイス公使館（現、深山荘、町指定文化財）に近く定住目的のために建てたごく普通の住居で周りの意匠を凝らした別荘とは少し趣がことなっています。ただ断熱性能にはこだわり外断熱で冬に備え厳しいと言われていたその季節を楽しめたのも幸いでした。薪ストーブと床暖房で過ごしその余熱で朝まで室温は15度を維持していました。

老人の健康と認知症予防にもっとも重要だと言われている運動はスキー、スケート等のウィンタースポーツはもとより流行りのカーリング、テニススクール等の講習会、夏のシーズンを外せばゴルフも安価で楽しめますし、人口2万人の町にしてはスポーツ施設が整っています。さらに夏には町主催で今年67回目の軽井沢夏期大学が3日間開催されます。大正7年に東京女子大学初代学長の新渡戸稲造と内務大臣の後藤新平によって創設された由緒あるセミナーで昨年と今年のテーマは「江戸時代を問い直す」で6人の興味深い講師陣の講演が聴けます。

残念なのは庭で畑仕事が出来ないこと。土地が火山灰質でやせていることもありますが野生動物を呼び寄せるので別荘地では禁止されています。まだ熊には遭遇していませんが、日本カモシカ、猪、狐、狸、リス、猿、など森の先住者の野生動物を見るのも都会育ちで動物好きの私達には楽しい。花好きの家内はこの頃は厳寒を乗り切ったバラ達の咲くのが楽しみなのか一日のほとんどを庭で過ごしています。

さて、こうして1年が過ぎ移住生活の最初の一步を踏み出したわけですが、いいことばかりであるはずのない現実、不安に思うこともあります。浅間山は小さいながらも噴火しました。自動車の運転がいつまでできるか。宅配網が充実したとはいえ公共輸送機関が整備されていない地方での生活には運転免許証が頼みの綱です。これから体力も知力も衰えてきたときと後悔することがでてくるのかもしれませんが、そんなときはJeff Bezos氏（Amazonの創業者）が2010年に母校プリンストン大学の卒業式で述べたスピーチを肝に銘じておこうと思います。

“In the end, we are our choices.”

何を選ぶか、あなたが下す決断があなたの人生である。

大松 裕昭（おおまつ ひろあき）



昭和23年生まれ
昭和47年3月 横浜国立大学経済学部卒業
同年4月 日本興業銀行入行
平成8年3月 同行エレクトロバンキング推進部副部長
平成9年6月 興銀システム開発（株）総務部長兼経営企画室長
平成16年4月 興和不動産（株）執行役員ビル事業本部副事業本部長
平成23年5月 JST（株）取締役不動産事業部長兼企画部長
平成25年6月 同社取締役退任

委員会等活動状況

● 理事会

開催日時	2015年6月8日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● VCCI 協会 第23回理事会の開催 ・ 審議事項 1 2014年度事業報告書(案) ・ 審議事項 2 2014年度決算書(案) ・ 審議事項 3 2015年度定時評議員会招集の審議
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議事項 1 提案どおりで承認された ・ 審議事項 2 提案どおりで承認された ・ 審議事項 3 提案どおりで承認された ・ 報告事項 1 理事・監事の選任について
開催日時	2015年6月22日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● VCCI 協会 第24回理事会の開催 ・ 審議事項 1 代表理事等の選任についての審議
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議事項 1 提案どおりで川上景一氏が代表理事に小田明氏が常務理事に就任することが承認された

● 評議員会

開催日時	2015年6月22日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● VCCI 協会 第9回評議員会の開催 ・ 審議事項 1 2014年度事業報告書(案)について ・ 審議事項 2 2014年度決算書(案)の審議 ・ 審議事項 3 理事・監事の選任の審議
審議決定・完了事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議事項 1 提案どおりで承認された ・ 審議事項 2 提案どおりで承認された ・ 審議事項 3 提案どおりで承認された

● 運営委員会

開催日時	2015年5月20日、6月17日、7月15日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2014年度事業報告書(案) ● 審議事項 2 2014年度決算書(案) ● 審議事項 3 4月～6月の新入会員について ● 審議事項 4 課題対応タスクフォース
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 4 課題対応タスクフォースでのマルチメディア機器に対する取り組み
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 承認 ● 審議事項 2 承認 ● 審議事項 3 新入会員を承認 ● 審議事項 4 適合確認届出の機器区分コードの変更について決定した ● 報告事項 1 各専門委員会(技術専門、国際専門、市場採取試験専門、広報専門、教育研修専門)4月～6月の委員会活動報告 ● 報告事項 2 事務局業務(新入退会会員動向、適合確認届出)の4月～6月までの状況報告 ● 報告事項 3 予算(会費、各事業)の4月～6月までの進捗状況 ● 報告事項 4 6月に開催した、評議員会、理事会の概要報告 ● 報告事項 5 7月に開催した、2014年度事業報告会の概要

● 技術専門委員会

開催日時	2015年5月8日、7月10日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2015年度各ワーキンググループにおける活動計画 ● 審議事項 2 CISPR32規格に対応したサイト評価方法について ● 審議事項 3 EUTサイズCISPR/A/1116/DC「放射妨害波測定に対するEUT寸法仕様の提案」について ● 審議事項 4 CISPR32第2版で追加されたFARを使用した測定法について ● 審議事項 5 VHF-LISNのCISPR規格化提案について
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 2 ● 審議事項 3 ● 審議事項 4 ● 審議事項 5
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議決定 1 提案どおり、承認された ● 報告事項 1 5月25日～29日、APEMC 2015Taipei,Taiwanにおいて、VCCIより2件の論文を発表 ● 報告事項 2 5月27日、台湾BSMIとの意見交換会を実施し、第2回技術交流会テーマを決定

● 国際専門委員会

開催日時	2015年4月10日、5月19日、6月12日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 VCCI30周年記念国際フォーラム2015の企画・準備 ● 審議事項 2 世界のITE規格表の調査・更新 ● 審議事項 3 規制動向の情報共有データベースの作成検討
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 ● 審議事項 3
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 2 世界のITE規格表更新版をウェブサイトに掲載した

● 市場抜取試験専門委員会

開催日時	2015年5月13日、6月19日、7月4日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2014年度市場抜取試験まとめと報告 ● 審議事項 2 2014年度不合格水準対応 ● 審議事項 3 2015年度市場抜取試験 ● 審議事項 4 書類審査 ● 審議事項 5 合同委員会 ● 審議事項 6 市場抜取試験の呼称 ● 審議事項 7 事業報告会資料
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 6 市場抜取試験の呼称についてVCCIの発足当初から使用している文言であるが、来年度から変更したいと提案があった。提案された文言は以下のとおり i) 買上試験→購入試験 ii) 借上試験→借入試験
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2014年度の市場抜取試験は110件を実施した。主な概要は以下のとおり 1. 買上試験60件および借上試験50件を実施 2. 不合格水準扱いは6件、その後の調査・対応等で不合格は0件 3. 判定時に試験条件やマーク表示等に関する30件のコメントあり対応済 4. 選定通知の発行から合格通知発行までの処理日数が分析され、総平均処理期間は、買上試験で57日、借上試験で72日（目標期間は2か月） 5. 書類審査40件を実施し、そのうち2件には再試験を要求した 6. 2013年度に不合格となった会員2社が、自社ウェブサイトの不具合を発表した ● 審議事項 2 2014年度の不合格水準対応は、以下のとおり i) a社：製品添付のUSBケーブル製造会社の是正した作業手順書入手し確認した。合格とする

審議決定・報告事項	<p>ii) b 社：製品に内蔵する HDD の影響で不合格水準となっている可能性があったので、会員が自社で調査した。問題の内蔵 HDD を他の 3 モデルにかえるとマージンがあり、同 HDD を他の同製品 3 台に内蔵すると問題が発生することがわかった。合格とする</p> <p>iii) c 社：自社測定の結果（周辺機が異なる）、許容値を満足していた。また、量産品の評価試験を定期的実施していることも鑑みて合格とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 3 市場採取試験の実施にあたり、今年度のテーマの一つとして、最近の新機種、スティック型 PC が提案され了承された ● 審議事項 4 今年度の書類審査で、1 社、測定条件の不備により再測定を指示していたが、適合確認届出を取消、本年度末に退会するとの通知があった。取消の理由、販売実績、使用場所等を確認する ● 審議事項 5 委託試験機関との合同委員会を開催し、試験時の依頼事項について説明し、意見交換を行った ● 審議事項 7 事業報告会の発表資料が展開された。会員番号と不合格件数の相関グラフも提示された。今年度から EMI 品質管理優良会社への優遇措置を検討することが追加された
-----------	--

● 教育研修専門委員会

開催日時	2015 年 5 月 14 日、6 月 16 日、7 月 14 日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 第 32 回測定技術者基礎コース、第 41 回測定技術者研修会、第 11 回通信ポート伝導妨害波測定コースおよび第 10 回 1GHz 超放射妨害波測定コースのアンケート結果について ● 審議事項 2 教育研修用の新たな機材の導入について ● 審議事項 3 自動／手動測定コース開催の検討について
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 3 講師分担が決定し、テキストの作成を開始。開催に向け審議を継続する
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 4 つの測定技術者研修を開催し、いずれも受講者からのアンケート結果は満足となった ● 審議事項 2 新たな周辺機器を含めた教育研修用機材を導入し、研修会で運用を開始 ● 報告事項 1 2015 年度教育研修事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月 4 日～5 日、11 日～12 日に第 41 回測定技術者研修会が開催され 12 名が受講 ・ 6 月 26 日に第 11 回通信ポート伝導妨害波測定コースが開催され、13 名が受講。本研修にて研修会に統合することとし、今までに 137 名が受講した ・ 7 月 9 日～10 日に第 10 回 1GHz 超放射妨害波測定コースが開催され 8 名が受講 ・ 7 月 24 日に第 2 回運用研修コースが開催され 14 名が受講

● 広報専門委員会

開催日時	2015年6月15日、7月10日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 テクノフロンティア開催報告について ● 審議事項 2 ウェブサイトリニューアルについて ● 審議事項 3 VCCI 委員向けアンケートについて
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 2 リニューアルについて業者からたたき台が展開された。現状の形式を保ちつつ、アクセス数が多いページを見やすい場所に配置するなど、新規およびリピーターの双方にとって使いやすいデザインとする
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 5月20日から22日にかけて幕張メッセにてテクノフロンティアが開催された。約260名がアンケートに回答し、VCCI の名前・活動内容を知っているという回答は88%で、専門性の高い展示会においては認知度が高いことが判明した ● 審議事項 3 昨年も実施した VCCI 委員向けアンケートを配信し、7月中に回答をいただくこととした。8月に結果をまとめ、今後の広報活動の指針とする

● 測定設備等審査委員会

開催日時	2015年5月18日
審議事項	● 測定設備等審査ワーキンググループの審査結果を審議した
決定事項	登録を承認したもの（補足資料請求、コメントを付しての登録証発行を含む）12社 放射妨害波測定設備 7基 電源ポート伝導妨害波測定設備 5基 通信ポート伝導妨害波測定設備 2基 1GHz超放射妨害波測定設備 7基 コメントを付し返却としたもの なし 次回審議としたもの 1基
開催日時	2015年6月29日
審議事項	● 測定設備等審査ワーキンググループの審査結果を審議した
決定事項	登録を承認したもの（補足資料請求、コメントを付しての登録証発行を含む）28社 放射妨害波測定設備 13基 電源ポート伝導妨害波測定設備 17基 通信ポート伝導妨害波測定設備 10基 1GHz超放射妨害波測定設備 17基 コメントを付し返却としたもの なし 次回審議としたもの なし
開催日時	2015年7月27日
審議事項	● 測定設備等審査ワーキンググループの審査結果を審議した
決定事項	登録を承認したもの（補足資料請求、コメントを付しての登録証発行を含む）24社 放射妨害波測定設備 15基 電源ポート伝導妨害波測定設備 10基 通信ポート伝導妨害波測定設備 7基 1GHz超放射妨害波測定設備 18基 コメントを付し返却としたもの なし 次回審議としたもの なし

●委員会等活動報告 略号集

略語	FULL NAME	日本語意
AAN	Asymmetric Artificial Network	不平衡擬似回路網
AMN	Artificial Mains Network	擬似電源回路網
ANSI	American National Standards Institute	アメリカ規格協会
APD	Amplitude Probability Distribution	振幅確率分布
APLAC	Asia Pacific Laboratory Accreditation Corporation	アジア太平洋試験所認定協力機構
AQSIQ	General Administration of Quality Supervision , Inspection and Quarantine of the People's Republic of China	国家品質監督検閲検疫総局
BSMI	Bureau of Standards, Metrology and Inspection	經濟部標準檢驗局 (台湾)
CALTS	Calibration Test Site	(アンテナ) 校正試験場所
CB	Certification Body	認証機関
CB	Competent Body	有資格者団体
CCC	China Compulsory Product Certification	中国強制製品認証
CD	Committee Draft	委員会原案
CDN	Coupling Decoupling Network	結合/減結合回路網
CDNE	Coupling Decoupling Network for Emission	放射妨害波用結合/減結合ネットワーク
CDV	Committee Draft for Vote	投票用委員会原案
CEMC	China Certification Center for Electromagnetic Compatibility	中国 EMC 認証センタ
CEN	European Committee for Standardization	欧州標準化委員会
CENELEC	European Committee for Electro Technical Standardization	欧州電気標準化委員会
CISPR	International Special Committee on Radio Interference	国際無線障害特別委員会
CMAD	Common Mode Absorbing Device	コモンモード吸収機器
CQC	China Quality Certification Center	中国品質認証センタ
CSA	Classical (Conventional) Site Attenuation	基本サイトアッテネーション
CSA	Canadian Standards Association	カナダ規格協会
DAF	Dual Antenna Factor	デュアルアンテナファクタ
DC	Document for Comment	コメント文書
DoC	Declaration of Conformity	適合宣言書
DOW	Date of Withdrawal	従来の規格を廃止する最終期限
DTI	Department of Trade and Industry	通商産業省 (イギリス)
DUT	Device Under Test	被試験素子
ECANB	EC Association of Notified Bodies	EC 通知試験所協会
Ecma	European association for standardizing information and communication systems	欧州 (ヨーロッパ) コンピュータ工業会
EICTA	European Information, Communications and Consumer Electronics Technology Industry Association	欧州情報通信技術製造者協会
EMCC	Electro Magnetic Compability Conference	電波環境協議会
EMCAB	Electromagnetic Compatibility Advisory Bulletin	EMC 助言広報
EMF	Electromagnetic Field	電磁界
EMF	Electromotive Force	起電力
ETSI	European Telecommunication Standards Institute	欧州通信規格協会
EUANB	European Union Association of Notified Bodies	欧州連合通知機関協会
EUT	Equipment Under Test	供試装置
FAR	Fully Anechoic Room	電波全無響室
FDIS	Final Draft International Standard	国際規格最終案
GB	guo jia biao zhun (National Standard of China)	中華人民共和国国家標準

略語	FULL NAME	日本語意
ICES	Interference-Causing Equipment Standards	カナダ妨害波規則
ICNIRP	International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection	国際非電離放射線防護委員会
IS	International Standard	国際規格
ISM	Industrial Scientific and Medical	工業科学医療
ISN	Impedance Stabilization Network	擬似通信回路網
ITE	Information Technology Equipment	情報技術装置
LCL	Longitudinal Conversion Loss	不平衡減衰量
MOU	Memorandum of Understanding	覚書
MP(法)	Magnetic Probe	磁界プローブ
MRA	Mutual Recognition Agreement/Arrangement	相互承認取り決め 政府-政府間：Agreement 民間-民間間：Arrangement 政府-民間間：Arrangement
NCB	National Certification Body	国家認証機関
NICT	National Institute of Information and Communications Technology	情報通信研究機構
NIST	National Institute of Standards and Technology	米国国家標準技術研究所
NP	New Proposal	新提案
NSA	Normalized Site Attenuation	正規化サイト減衰量
NWIP	New Work Item Proposal	NPと同じ
OFDM	Orthogonal Frequency Division Multiplex	直交周波数分割多重通信方式
PAS	Publicly Available Specification	公開仕様書
PLT	Power Line Telecommunication	電力線通信
R&TTE	Radio & Telecommunications Terminal Equipment	無線および電気通信端末機器
RBW	Resolution Band Width	分解能帯域幅
REF	Reference	基準
RRA	Radio Research Agency	電波研究所（韓国）
RRT	Round Robin Test	ラウンドロビンテスト
RSM	Reference Site Method	基準サイト法
RVC	Reverberation Chamber	反射箱
SAC	Semi Anechoic Chamber	電波半無響室
SN	Signal to Noise ratio	信号対雑音比
TF	Task Force	タスクフォース、特別委員会
TG	Tracking Generator	トラッキングジェネレータ
UPS	Uninterruptible Power Supply	無停電電源装置
VBW	Video Band Width	ビデオ帯域幅
VHF-LISN	Very High Frequency-Line Impedance Stabilization Network	VHF電源線インピーダンス安定化回路図
VSWR	Voltage Standing Wave Ratio	電圧定在波比
WP	Working Party	作業部会

CISPR（国際無線障害特別委員会）の歴史（その1）

徳田 正満

1. まえがき

CISPR (Comité International Spécial des Perturbations Radioélectriques (フランス語の語順で略語を作成)、International Special Committee on Radio Interference (英語): 国際無線障害特別委員会) の歴史は、CISPR/TR 16-3 の 5.1 に詳細に記述されている¹⁾。また、CISPR の現委員長である Heirman 氏は部分的にはあるが、CISPR/TR 16-3 より詳細な情報を雑誌に掲載している²⁾。一方、東北大学杉浦行名誉教授が、EMC 電磁環境ハンドブックの資料編 (EMC 規格規制) で、CISPR の歴史とそれに対する国内の対応状況を紹介している^{3,4)}。さらに、総務省の大泉雅昭氏が、電子情報通信学会「知識ベース」でより詳細な情報を紹介している⁵⁾。本報告では、杉浦行名誉教授の紹介内容をベースにして、その他の情報を加味しながら、CISPR の歴史とそれに対する国内の対応状況を紹介する。

2. CISPR のスコープと構成員

現在 (2015 年 6 月末) の CISPR におけるスコープは、以下を含む EMC 分野での標準化である⁶⁾。なお、CISPR 規格に対するさらなる情報は CISPR ガイドを参照のこと。

- ①電気電子装置・システムの動作によって発生する周波数 9kHz～400GHz の妨害波に対する無線受信の保護
- ②妨害波測定に対する測定器、測定設備、測定法および統計的手法
- ③電気電子装置・システムによって発生する無線妨害波の許容値
- ④電気装置、マルチメディア装置、情報技術装置およびラジオ・TV 放送受信装置の妨害波に対するイミュニティ要求条件
- ⑤当該のイミュニティ測定法を規定している基本規格をメンテナンスしている IEC の関連 TC とのリエゾン。関連製品規格における当該のイミュニティ試験レベルは、CISPR によってセットされる予定。
- ⑥IEC および ISO のデバイスと製品に対するエミッションとイミュニティの要求において、製品個別の EMC 要求が CISPR 規格と整合していない場合、当該の製品 TC と CISPR が合同で対応を検討
- ⑦妨害の抑制と電気装置のイミュニティにおいて、安全に関するインパクトを考慮

現在の CISPR の構成員は、IEC の加盟国 (P メンバー: 26 か国、O メンバー: 15 か国) 以外に、以下の国際組織が構成員である。

- ①CIGRE (Conseil International des Grands Réseaux Électriques [フランス語], International Council on Large Electric Systems [英語]: 国際大電力システム会議)
- ②EBU (European Broadcasting Union: 欧州放送連合)
- ③ETSI (European Telecommunications Standards Institute: 欧州電気通信標準化機構)
- ④IARU (International Amateur Radio Union: 国際アマチュア無線連合)

- ⑤ITU-R (International Telecommunications Union－Radio-communications Sector : 国際電気通信連合－無線通信標準化部門)
- ⑥ITU-T (International Telecommunications Union－Telecommunication Standardization Sector : 国際電気通信連合－電気通信標準化部門)

3. CISPR の設立とその後の進展

ラジオ放送が普及し、無線通信が発達していた 1930 年代前半になると、無線障害が顕著になってきたため、1933 年に IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議) や UIR (Union Internationale de Radiotéléphonie [フランス語]、International Sound Broadcasting Union [英語]) 等の関連国際機関がフランスのパリに集まってこの問題を審議した。その結果、妨害波測定法と許容値について国際的統一を図り、これによって物品や業務の国際取引を容易にするために特別委員会 CISPR を作る事になった。IEC の TC (Technical Committee : 専門委員会) は加盟国の代表のみで委員を構成するが、CISPR の場合は、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ、フランス、ドイツおよび英国の 6 つの加盟国以外に、UIR、UNIPED (Union internationale des producteurs et distributeurs d'énergie électrique [フランス語]、International Union of Producers and Distributors of Electrical Energy [英語] : 国際電気事業連合)、CIGRE、UIC (Union Internationale des Chemins de fer [フランス語]、International Union of Railways [英語] : 国際鉄道連合) 等の国際機関が委員になっている。このような経過から、当初、CISPR は IEC から独立しており、その規格は CISPR Publication として刊行された。しかし、CISPR の事務局を IEC が担当していたため、1980 年代に IEC の下部組織になった。

CISPR の第 1 回総会 (Plenary Assembly) は 1934 年 6 月にパリで開催されたが、この第 1 回総会開催をもって、CISPR の設立とされている。初代の CISPR 委員長は、英国の Sir C.C. Patterson である。このときの組織構成としては、総会の下に許容値を担当する SC-A と測定法を担当する SC-B の二つの SC (Subcommittee : 小委員会) のみが存在していた。その後、1953 年のロンドン会議で議長へのアドバイス等を行う運営委員会 (Steering Committee) が、また、1958 年のハーグ会議で安全を担当する SC-C が設置された。これらの組織は、1973 年のウエストロングブランチ会議で大幅な改正が行われ、図 1 の SC-A～SC-F に示すような組織構成になった。その後、デジタル電子機器やマイクロプロセッサのデジタル信号がラジオの受信障害として深刻な問題となり、それに対応するために運営委員会にワーキンググループを 1975 年に組織し、その後、SC-B のワーキンググループとして対応することになった。このワーキンググループが 1985 年のシドニー会議で SC-G として再構成され、情報技術装置の EMC に対する許容値と測定法に関する規格を作成することになった。

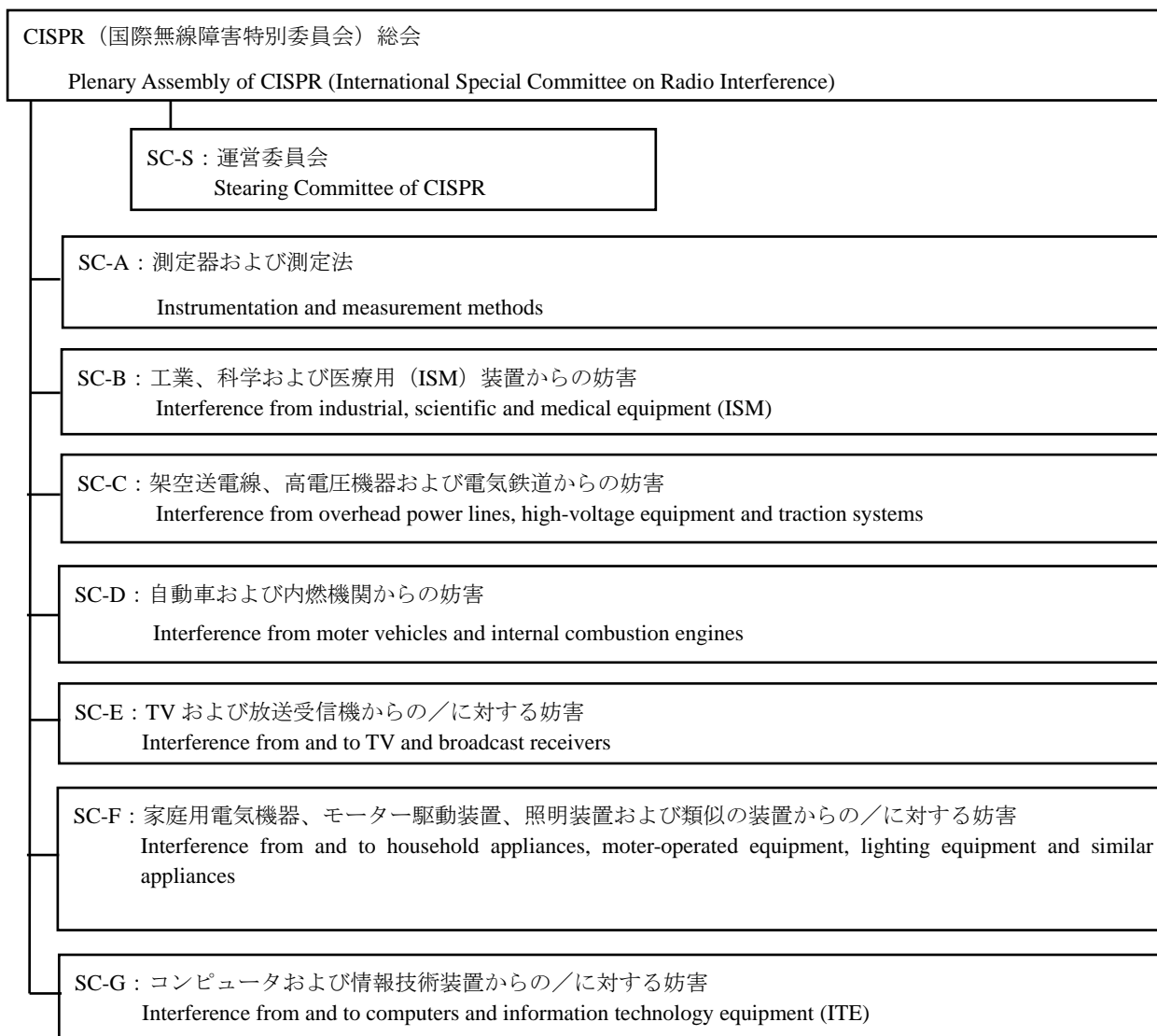


図1 1973年の大改正を経て1985年におけるCISPRの組織構成

エミッションに対する共通規格を作成するために、運営委員会の中にWG1が1992年に設置され、それが発展してエミッション共通規格と妨害波許容値の根拠を検討するSC-Hが1998年に設立された^{7~9)}。一方、SC-Bは、2001年に架空電力線、高電圧装置および電気鉄道からの妨害を担当していたSC-CがSC-Bに統合されたため、現在のタイトルになった。なお、SC-Cが担当していた仕事はSC-B/WG2に引き継がれた。また、SC-Iは放送受信機・AV機器と情報技術装置の融合に対応するため、SC-Eが所掌していた「音声・TV放送受信機および関連機器」とSC-Gが所掌していた「情報技術装置」を統合し、これに新たに「マルチメディア機器」を加えて2001年6月に設立された。

【参考文献】

- 1) CISPR/TR 16-3: Specification for radio disturbance and immunity measuring apparatus and methods — Part 3: CISPR Technical reports, Edition 3, 5. 1 The history of CISPR, pp.228-231, 2010.8
- 2) D. Heirman and M. Stecher: History of CISPR, In Compliance News on June 1, 2010 In Standards Articles.

<http://incompliancemag.com/article/history-of-cispr/>

- 3) 杉浦行: 1.3 CISPR (国際無線障害特別委員会)、EMC 電磁環境ハンドブック (編集委員会委員長: 佐藤利三郎) 資料編 EMC 規格規制 (編集主査: 徳田正満)、三松 (発行所)、丸善 (発売所)、pp.88-91、2009.9
- 4) 電気学会電気電子機器のノイズコミュニティ調査専門委員会編 (委員長: 徳田正満): “電気電子機器におけるノイズ耐性試験・設計ハンドブック”、科学技術出版 (発行所)、丸善 (発売所)、pp.15-18、2013.4
- 5) 大泉雅昭: 2-1-4 CISPR、電子情報通信学会「知識ベース」、13 群、1 編、2 章、pp.12-16、2010.2
- 6) CISPR Scope、Scpoe、CISPR;
http://www.iec.ch/dyn/www/f?p=103:7:0:::FSP_ORG_ID,FSP_LANG_ID:1298,25
- 7) 徳田、岡村、高橋: 第 1 章 CISPR/S/WG1 (妨害波に対する共通規格)、CISPR の現状と動向 (ロッテルダム会議の結果を踏まえて)、1994.1
- 8) 徳田、杉浦、高木: 第 1 章 CISPR/S/WG1-妨害波の共通規格-、不要電波問題対策協議会 CISPR 北京会議報告書、1995
- 9) 徳田: 特集 電磁環境対策 2 電磁環境に関する国際規格の動向、電気設備学会誌、Vol.17、No.11、pp.984-990、1997



徳田 正満 (とくだ まさみつ)

1967 年 北海道大学工学部電子工学科卒業
1969 年 日本電信電話公社に入社し電気通信研究所に配属
1987 年 NTT 通信網総合研究所通信 EMC 研究グループリーダー
1996 年 九州工業大学工学部電気工学科教授
2001 年 武蔵工業大学工学部電子通信工学科教授
2010 年 東京都市大学 名誉教授
東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 客員共同研究員

主要な受賞

1986 年 電子通信学会業績賞を受賞
(光ファイバケーブル設計理論と評価法の研究)
1997 年 平成 9 年度情報通信功績賞受賞 (郵政省)
(EMC 技術の開発・標準化)
2003 年 工業標準化事業功労者として経済産業大臣賞を受賞
2004 年 電子情報通信学会フェロー
2007 年 IEEE Fellow に昇格

情報通信月間 VCCI セミナー報告

運営委員会

昭和 60 年 4 月から情報通信の制度改革を機に、情報通信の普及・振興を図る目的で、情報通信月間推進協議会の主催により情報通信月間が開催されている。今年度、VCCI 協会として 3 度目の本行事に参加し、VCCI セミナーを開催した。

1. 開催要領

日 時 : 2015 年 5 月 15 日 (金) 13:00~17:00

場 所 : ノアビル 5 階 VCCI 協会 会議室

2. プログラム

時 間	テ ー マ	講 師
13:00~13:30	(1) VCCI 活動の紹介と今後の規制動向 ・ 会員制度と自主規制、VCCI の活動概要 ・ EMI 規制の今後 (電安法、マルチメディア規格)	VCCI 協会 常務理事 佐竹 省造
13:30~14:00	(2) 世界の規制紹介 ・ 世界の電磁妨害波規制について紹介	VCCI 協会 常務理事 佐竹 省造
14:00~15:00	(3) 電磁妨害波規制 ・ CISPR32 第 2 版の概要 - 2015.03.31 に発行された概要を CISPR22 と比較して説明	技術専門委員会委員長 星 綾太郎
15:10~15:50	(4) EMI 教育研修と測定上の留意点 ・ VCCI における研修事業の概要 - 適合確認届出 - 試験成績書ガイドライン	教育研修専門委員会委員長 平田 稔
15:50~16:50	(5) EMI 不具合箇所の簡単摘出法 (EMI 対策の効率化) ・ 近傍電磁界と遠方電磁界 ・ 電磁界を検出するプローブ ・ 不具合箇所の摘出手順	技術/教育研修専門委員会委員 山口 正徳
16:50~17:00	質疑応答	各講師

受講者数 : 39 名

3. 質疑応答

テーマ (3) についての質問

Q1：6.1 項一般事項に「シールドケーブルおよび非シールドケーブルどちらも接続可能なポート」についての記述があるが、従来と同じ考えか。

A1：ケーブルの仕様により、試験内容が決定するため、従来と同じ。

Q2：6.2 項ホストシステムとモジュラーEUTの測定において、モジュールは少なくとも1台の代表的なシステムとあるが、複数台ある場合はどうなるのか。

A2：2dBルールがあり、従来どおりの測定方法で行う。

Q3：8 項測定の適用性において、複数の測定が不必要と判断した場合とあるが、最も悪い動作条件について試験報告書に記載すればよいか。

A3：試験結果が最大となる動作条件での試験を実施し、試験報告書にその正当性を明記すればよい。

Q4：付則 A 機器の測定条件において電圧についての記述があり、電圧の使用範囲が広いユニバーサル電源の場合は、どの電圧で試験を実施することになるか。

A4：実際に使用される環境での電圧に設定して試験を実施する。

Q5：付則 A 要求事項にチューナーポートについて記載があるが、VCCIはCISPR13の規格対象である試験も実施することとなるか。

A5：ITEにおいてもチューナーポートがあるものがあり、試験を実施する必要があるため、試験範囲については引き続き検討していく。

Q6：付則 D の図 D.7 の床置き装置において垂直基準金属面からの距離が「一般的な間隔」となっているが、従来の80cmから変更となったのか。

A6：原文の内容を確認し、必要な場合は答申アドホック等への提案も検討する。

テーマ (4) についての質問

Q1：全体フローの中で、「適合確認届出通知」が出されるが、「証明書」との関係はどうなっているのか。

A1：これについては2015年4月に運用規程が改定され、「適合確認届出通知」に統一されている。本日のテキストについては修正する。

Q2：CISPR22で作成した試験成績書をCISPR32の試験報告書としても使用できるか。

A2：CISPR32として使用できると考えるが、CISPR32に適用できる根拠を書類等で残す。

テーマ（5）についての質問

Q1：微小ループと微小モノポールはスペクトルが違ふとあるが、測定例の微小ループではループ面を変えて測定しているのか。

A1：微小ループの面を変化させて、一番大きくなるチャートに記載している。なお、近傍磁界と近傍電界では波動インピーダンスが異なるので、同じスペクトルにはならない。

4. 所 感

VCCIの情報通信月間への参加は3度目となる。参加者は39名、そのうちVCCI会員が9割であったこともあり、質疑応答時にはCISPR32に関する質問が多く、その後も各講師に対し積極的に質問されていた。

また、アンケートからは、「関西でも開催してほしい」「EMI不具合箇所の簡単摘出法が大変参考になった」等の意見をいただくことができ、参加者全体の75%がセミナー内容に満足であったことから、セミナーの目的を果たすことができた。

そして、非常に多くの内容を短時間で説明したこともあって、質疑応答の時間を多くしてほしい等の要望もあり、今後さらに改善し、よりよいセミナーとしていきたい。



セミナー全体



質疑応答

APEMC 2015 Taipei 報告書

技術専門委員会

本年の APEMC 2015 に技術専門委員会として、論文を投稿し発表を行った。

開催場所 : The Grand Hotel, Taipei, Taiwan (台湾 台北)

開催期間 : 2015 年 5 月 25 日 (月) ~ 29 日 (金)

参加者 : 星技術専門委員会委員長 (日立情報通信エンジニアリング)、奥山技術専門委員会委員 (NEC プラットフォームズ)、牧野技術専門委員会委員 (富士通ゼネラルイーエムシー研究所)、島ノ江技術専門委員会委員 (STech)
佐竹 VCCI 常務理事、小田 VCCI 主幹、村松 VCCI 技術部長

1. シンポジウム概要

EMC 設計と EMC/RFI の測定に関係する 200 の論文が、50 のワークショップ/チュートリアル、SI (Signal Integrity) /PI (Power Integrity)、集積回路/パッケージ、無線通信、スマートグリッドなどのテーマで発表された。

論文提出における審査統計の紹介がされ、論文提出は 256 件、そのうちアクセプトが 198 件で採用率は 77%であった。198 件のアクセプトされた技術文書の内訳は、166 件の発表と 32 件のポスターであった。

キーノート 1 では、Smarter New World・Connect・Immersive をキーワードとした将来におけるスマートフォン等の利用シーンが紹介され、新たなテクノロジーによる活用方法が提案されていた。

キーノート 2 では、Strong experience・Capturing・Connecting・Touching をキーワードに半導体業界の視点から台湾の技術・産業の取り組みを紹介していた。

(1) ワークショップとチュートリアル

ワークショップとチュートリアルは、5 月 26 日~29 日の毎日開催され、15 のセッション、46 件の発表があった。特に WS07 では“ANSI C63.4-2014 の規格改定による EMC 試験への影響についての講演もあり、ANSI 規格改定への関心の高さを感じた。



展示場風景

(2) セッション

テクニカルプログラムは、以下のセッションが行われた。トピックスは下記の技術エリアについて発表がされた。

トピック	論文	トピック	論文
Aerospace EMC	6	Integrated Circuit EMC	18
Antenna and Wave Propagation	22	Power System EMC and Smart Grid	1
Biomedical Electromagnetics	11	Signal Integrity and Power Integrity	38
Computational Electromagnetics	12	System Level EMC and Protection	7
Electromagnetic Environment	2	Transient EMC	20
Electronic Packaging EMC	6	Transportation EMC	12
EMC in Nanotechnology and Advanced Materials	1	Wireless Communication EMC	5
EMC Measurement and Instrumentation	21	Wireless Power Transfer	2
EMC Standard and Management	2	Others	12

(3) VCCI 関連の論文発表

- ① 5月29日に奥山委員が“Improvement of Radiated Emission Measurement Reproducibility with VHF-LISN Obtained from Final Results of International Inter-laboratory Comparison on Termination Control of Power Line”の発表を行った。

以下に主な質疑を記す。

Q1: VHF-LISN を用いた場合と用いない場合とで、実際のエミッションレベル (actual emission level) の差はどのくらいか。もし、差があるなら許容値レベルにインパクトがあるのかどうかを知りたい。

A1: 本発表趣旨は、発表の中で述べたとおり、現状のように試験サイトの EUT 供給用の電源インピーダンスを規定していないことが原因で測定値がばらつくことが大きな問題と言える。そのため、電源インピーダンスを規定することが必要だと考えている。

コメント: この検証結果から、現状の測定方法 (電源インピーダンスを規定していない) では測定値が大きくばらつくことがよくわかった。CISPR/1/WG2 でも継続検討している案件であり、ぜひ今後も検討を続けていただきたい。

- ② 5月29日に牧野委員が“Comparison Experiments on Hybrid and Biconical / LPD Antennas in Radiated Emission Measurement Below 1GHz”の発表を行った。

以下に主な質疑を記す。

Q1: VCCI 協会では、従来、試験設備登録時に測定距離 3m でハイブリッドアンテナの使用は推奨していないと聞いているが、この実験結果から現状はどのように対応しているのか?

A1: この実験結果に基づき、VCCI 協会の試験設備登録時に一部のアンテナを除いてハイブリッドアンテナの使用をすでに認めている。イミュニティ試験用のアンテナおよびエレメント長が 1.5m を超えるものについては、従来どおり推奨していない。

Q2: 実験で 6 本のアンテナを使用しているが各アンテナの校正はどのように行ったのか?

A2: すべて同じサイトで同じ条件で校正を実施した。

Q3: 200~300MHz でハイブリッドアンテナの測定値が高くなる理由について説明してほしい。

A3: ハイブリッドアンテナのバイコンカルエレメントは、アンテナが水平偏波のときに垂直成分を、逆に垂直偏波のときに水平成分を受信するため測定値が高くなると考えている。ただし、実際の EUT は水平/垂直偏波が分かれることはなく、両方が含まれて放射されているため、今回の実験は実際の EUT 測定に近い結果と考えている。

(4) 展 示

Grand Hotel 内で開催され、展示場には 17 社による EMC に関する展示がされていた。測定器、アンテナ、シミュレーションなどの企業が出展しており、FCC 社より VHF-LISN の展示がされていた。出展社数については昨年より減っているようであった。

2. 所 感

奥山委員と牧野委員の発表は EMC Measurement のセッションで行われ、会場が一杯となる約 40 名の聴講者があり、たいへん盛況であった。

奥山技術専門委員の VHF-LISN の発表については、国際 RRT の最終結果の報告をもとに現状の問題点の説明と VHF-LISN の効果および優位性のアピールを十分行うことができた。今後は、VHF-LISN の CISPR 規格化へ向けて VCCI のワーキンググループ活動を進めていく。

牧野委員の測定距離 3 m でのハイブリッドアンテナの使用については、バイコン/ログペリアンテナ使用時との測定結果の比較実験をもとに発表された。測定距離 3 m でのハイブリッドアンテナの使用について、VCCI 協会はアンテナ長の違いによる差が大きく、使用することは推奨しないとの見解であったが、実際にはその差は小さく測定距離 3 m で使用しても問題はないとの検証結果を報告した。また、VCCI 協会の試験設備登録におけるハイブリッドアンテナのコメント付き登録についても一部のアンテナを除いてはコメントを付記しないとしたことを報告し、国際整合性の観点からもアピールできた。

APEMC 全体としては、Uncertainty のセッションはなく、各アプリケーションによる測定方法の妥当性や、解析と実測の相関性などの発表が多かった。

その他のセッションでは、アンテナ解析などのセッションが多く開催されており、製品評価方法として実測定と数値解析を連携した事例を多く発表していた。

なお、2016 年は、5 月 18 日～21 日に Shenzhen, China で開催予定である。



発表会場にて



発表風景（奥山委員）



発表風景（牧野委員）

2014 年度 VCCI 事業報告会開催報告

VCCI 協会 事務局

「2014 年度 VCCI 事業報告会」を下記要領で開催しましたので、以下に内容を紹介します。

実施日：2015 年 7 月 3 日（金） 13：30～17：30

場 所：機械振興会館 6 階 D 会議室

出席者：約 70 名

＜2014 年度 事業報告会 プログラム＞

テーマ	報告者
ごあいさつ	VCCI 協会理事長 川上 景一
事業報告	VCCI 協会常務理事 小田 明
運営委員会活動の概要報告	峰 眞二 運営委員会委員長 NEC プラットフォームズ株式会社
各専門委員会の活動について ・技術専門委員会 ・国際専門委員会 ・市場抜取試験専門委員会	星 綾太郎 技術専門委員会委員長 株式会社日立情報通信エンジニアリング 内田 由紀夫 国際専門委員会委員長 パナソニック株式会社 菅野 伸 市場抜取試験専門委員会委員長 NTT アドバンステクノロジー株式会社
休 憩	
・広報専門委員会 ・教育研修専門委員会	黒田 真仁 広報専門委員会委員長 株式会社日立情報通信エンジニアリング 平田 稔 教育研修専門委員会委員長 株式会社 日立製作所
質 疑 応 答	
休 憩	
特別講演：「テーマ：日本型ものづくり第 4 次産業革命－IoT が日本を救う－」 講 師：吉川 良三 氏 東京大学大学院 経済学研究センター ものづくり経営研究センター 特任研究員	

初めに、川上理事長より以下の内容にて冒頭の挨拶があった。

- 6月22日に、前任の長谷川英一理事長の後任としてVCCI協会の理事長に就任したとの紹介があった。
- VCCI協会の昨年度末の会員数は1,163社となっている。協会は今年12月に創立30周年を迎える。これも関係省庁および会員各位のご協力の賜物と謝辞を述べた。
- スマホ、タブレットの普及ウェアラブル端末の出現などにより、電波利用が広がっている。電波を有効利用するためには、妨害波を抑え込むことが今後ますます重要となり、VCCI協会としても積極的に取り組んで行く。
- 今後とも、我が国の適切な電磁環境の維持・向上を図り、ユーザの皆様からより高い信頼を得るべく活動を続けて行くので、会員の皆様の一層のご支援・ご協力をお願いするとして挨拶を終えた。

次に、小田常務理事より2014年度の事業報告と2015年度の事業計画について、報告があった。

2014年度事業報告

- 2014年度の協会概要、組織、評議員・役員について報告
- 会員数の推移、海外会員の構成について、適合確認届出数の推移、試験所データの相互受け入れによる運用、サイト登録の状況についての報告
- 2014年度事業活動収入推移・事業活動支出推移について説明
- 2014年度決算監査報告書について説明
- 2014年度主要実施事業について説明
 - －魅力ある協会活動の再構築、CISPR小委員会事務局、業務の電子化の推進、海外関連機関との連携維持・強化 など

2015年度事業計画

- 2015年度 評議員、役員体制について報告
- 2015年度、協会運営の重点方針について説明
 - －魅力ある協会事業活動の再構築、マルチメディア機器国際規格CISPR32への対応、創立30周年記念事業実施、海外関連機関との交流強化 など
- 2015年度予算について事業活動収入推移、事業活動支出推移を説明

次に委員会報告として、運営委員会報告を峰委員長より行った。

- 2014年度VCCI協会の委員会体制、専門委員会の役割と事業、運営委員メンバーについて説明
- 2014年度活動のハイライトとして以下の内容を報告
 - －CISPRフランクフルト会議にてVHF-LISNのDC文書提案
 - －EMC'14Tokyo、EMC EURO（ヨーテポリ）にて「AMNの高さの違いとその設置条件による妨害測定の偏差」、「VHF-LISNを使用した測定の不確かさ低減」、「電源ケーブルにCMADを装着した場合の放射妨害波における終端インピーダンスの影響」の論文を発表
 - EMC'14TokyoではVCCI主催のオーガナイズドセッションを実施

- －海外関係機関との意見交換実施
- －総務省情報通信月間 EMC セミナー、各県工業技術センターEMC セミナー（福井県工業技術センター、宮城県産業技術総合センター、静岡県浜松工業技術支援センター）の報告
- －試験所データの相互受け入れによる運用の継続について報告
- －VCCI の課題対応タスクフォースについて報告
 - VCCI 協会の役割、電安法・CISPR32 対応、VCCI マーク表示などについての検討のまとめが報告された。
- 2015 年度活動のハイライトとして、タスクフォースによる魅力ある活動の検討と推進、VHF-LISN の国際規格推進、関係機関との意見交換、EMC セミナー開催、創立 30 周年記念行事の実施などについて報告

次に各専門委員会より活動内容の報告を行った。

■技術専門委員会より星委員長が報告

- 技術専門委員会の基本方針、活動方針が説明され、2014 年度の技術専門委員会組織、委員会活動実績について報告
- 2014 年度の CISPR 対応、CISPR32、放射、伝導、VHF-LISN、アンテナ校正、規程の各ワーキンググループの活動実績について報告
- CISPR32 で要求される測定法について、新 VCCI 技術基準(案)策定に向けた検証を CISPR 対応ワーキンググループ、放射ワーキンググループ、伝導ワーキンググループと連携して実施したことを報告
- 2015 年度技術専門委員会組織、活動計画、技術専門委員会委員を紹介
- 2015 年度各ワーキンググループの活動計画について報告

■国際専門委員会より内田委員長が報告

- 国際専門委員会の役割と活動方針、2014 年度活動内容について報告
- 2014 年度主要海外 EMC 法規関連動向について報告
 - 北米 EMC 情報、EU 情報、オーストラリア EMC 情報、国際規格動向について報告
- 情報機器最新 EMC 規格採用情報データベースについて報告
- 国際フォーラム 2015 について報告
 - CISPR 事務局、欧州、米国より講師を招いて「CISPR 32 の最新情報ならびに米国と欧州の規制動向」のテーマで講演会を実施した。
- 2015 年度の活動計画、国際専門委員会委員を紹介

■市場抜取試験専門委員会より、菅野委員長が報告

- VCCI の自主規制、市場抜取試験について説明
- 2014 年度の活動報告
 - －抜取試験：110 件実施し、不合格 1 件、合格 109 件
 - －書類審査：40 件実施し、2 件再試験要請を行った
 - －表示実態調査：1,600 点実施、不適切表示の是正勧告等を行った
- 市場抜取試験の試験概要報告
 - －クラス別、買上、借上、国別抜取内容。市場抜取試験結果の推移。
 - －被選定会員の番号分布と不合格状況。不合格の原因別分析、不合格の原因分類推移
- 2014 年度書類審査について報告
 - －40 件実施し、2 件再試験要請、39 件：誤記、記載漏れ、修正版を提出後合格
 - －国別：日本 22 件、米国 10 件、台湾 4 件、中国 1 件、韓国 1 件、カナダ 1 件、イスラエル 1 件
- 表示実態調査について説明
 - －VCCI マークの変形事例、外箱表示の事例、VCCI 適合表示法について説明
- 2015 年度活動計画、市場抜取試験専門委員会委員を紹介

■広報専門委員会より、黒田委員長が報告

- 2014 年度活動内容について説明
- 機関誌発行。VCCI DAYORI 113 号～116 号の発行。アニュアルレポート（日・英）の 2013 年度版発行
- VCCI マーク認知度向上活動。JR 大阪・JR 秋葉原駅の電飾看板、地下鉄日比谷線ドア窓ステッカー広告を実施
- VCCI マーク認知度向上活動、学生への PR
VCCI 協会入会案内パンフレット（日本語版、英語版）の作成、0 円（応援）ノートを大学 22 校に配布、専門誌（新電気、月刊 EMC、電子情報通信学会誌）に広告を掲載。産経新聞に広告を掲載。2015 年カレンダーの国内会員への配布
- 広報活動の認知度調査アンケートの結果報告
- 展示会出展。COMPUTEX TAIPEI 2014、TECHNO FRONTIER 2014 への出展報告
- 2015 年度活動計画、広報専門委員会委員を紹介

■教育研修専門委員会より、平田委員長が報告

- 2014 年度委員会活動の実績について説明
- 2014 年度に実施した、測定技術者「基礎コース」、測定技術者研修会、アンテナ校正・NSA 測定コース、通信ポート伝導妨害波測定コース、1GHz 超放射妨害波測定コース、運用研修コース（新設）の研修会の実施概要について報告
- 2014 年度受講者アンケート結果について報告、ほぼ満足以上が 95%との説明
- 新たな研修として「自動／手動測定の活用」を検討し、2015 年度開催を決定したとの報告

- 2015 年度活動計画、委員会活動について説明。2015 年度は「自動／手動測定の活用」コースを新設
教育研修事業協力機関、教育研修専門委員会委員を紹介

最後に特別講演として、吉川良三先生より「日本型ものづくり第4次産業革命ーIoTが日本を救うー」について講演いただいた。

吉川先生より、まず「日本は単なる六重苦によって産業の競争力が失われたのか」との問題提起がなされた。過去の歴史を見てみると長期波動の下降期に革新的な発明・発見が現れ次の上昇の原動力となっていると「コンドラチェフの波」を説明され、現在の世界の状況より、技術革新の新たな段階として「IoT」が注目されていると述べられた。

次に、ものづくりにおける環境の四大変化について説明され、「アナログものづくり」から「デジタルものづくり」に変わり、「市場のグローバル化」「調達のグローバル化」「R&Dのグローバル化」「競争のグローバル化」が起きていると述べられた。

このような中で、新しい「ものづくり」を考えるときに、「もの」と「つくり」に分けて考えることが重要と説明され、グローバル競争時代の新しいものづくりの方向性として、経営戦略の国際化からグローバル化へ考え方を変えることが必要と述べられ、「製品開発戦略の転換（現地、現材、現人）」「摺合せ型開発からモジュラー型開発へ」「グローバル人財の育成」「グローバル市場に適応可能な組織能力の構築」「グローバル競争に適応したITの活用と全体最適化」についてスピード感を持った対応が求められると説明された。

最近のものづくりの動向として、ドイツでは「インダストリー4.0」で工場の無人化に取り組んでいる。アメリカでは、GE社が「インダストリアル・インターネット」で産業機械同士のネットワークに取り組み、日本では「第4次ものづくり産業革命」としてIoTを活用した新たなビジネス創造「新医・職・住民」に取り組んでいる、と紹介された。

最後に、IoTの本質である新たな6CONが重要と話された。新たな6CONとは「入力・認識系 Contact & Cognition」「伝送系 Conduit Container」「蓄積・解析系 Contents Context」「出力系 Control」の頭文字の概念であり先生が作られた造語であると紹介され結ばれた。



事業報告会風景



吉川良三先生 特別講演

VCCI 協会創立 30 周年事業ご案内

VCCI 協会 事務局

一般財団法人 VCCI 協会は前身の VCCI（情報処理装置等電波障害自主規制協議会）を創立してから今年 12 月 19 日で 30 年を迎えます。これを記念して、下記の行事を予定しておりますので、ご案内いたします。

I. VCCI 協会創立 30 周年記念国際フォーラム開催

1. 開催日時：2015 年 11 月 20 日（金） 10 時 30 分～17 時 00 分
2. 開催場所：東京青山 国連大学
3. 内容（発表内容は変更する場合があります）
 - ・特別講演：総務省、経済産業省
 - ・海外招聘者講演
 - ① Gulf 情報
 - ② EU Commission 情報
 - ③ 米国 FCC 情報

II. VCCI 協会創立 30 周年記念パーティー開催

1. 開催日時：2015 年 11 月 20 日（金） 18 時 00 分～20 時 00 分
2. 開催場所：ホテルグランドアーク半蔵門
3. 内容
 - ・来賓祝辞
 - ・感謝状贈呈
 - ・懇親会

III. VCCI 協会創立 30 周年記念誌 発刊

1. 2016 年 2 月（予定）に VCCI 協会のこれまでの歩みや今後の展望などを記した記念誌の発刊を予定しております。

2014 年度市場採取試験結果

市場採取試験専門委員会

2015年7月31日

計画件数	借上		50		110		判定結果			
	買上		60				合格	不合格水準		
選定時期	選定件数	中止 (未出荷 など)	応答待 件数	試験確 定有効 件数	試験完了 件数	判定待ち		合格	合格 判定	不合格
総 計	120	10	0	110	110	0	103	7	0	0

市場借上試験 計	59	9	0	50	50	0	46	4	0	0
第 1 四半期	14	3	0	11	11	0	10	1	0	0
第 2 四半期	26	4	0	22	22	0	20	2	0	0
第 3 四半期	17	1	0	16	16	0	16	0	0	0
第 4 四半期	2	1	0	1	1	0		1	0	0

市場買上試験 計	61	1	0	60	60	0	57	3	0	0
第 1 四半期	20	0	0	20	20	0	20	0	0	0
第 2 四半期	24	1	0	23	23	0	21	2	0	0
第 3 四半期	16	0	0	16	16	0	15	1	0	
第 4 四半期	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0

合格	不合格	調査中
110	0	0

書類審査	選定件数	中止 (退会 など)	応答待 件数	審査確 定有効 件数	審査完了 件数	判定待ち	判定結果	
							問題なし	問題あり
	41	1	0	40	40	0	38	2

2015 年度市場抜取試験実施状況

市場抜取試験専門委員会

2015年7月31日

計画件数	借上		50		110		判定結果			
	買上		60				合格	不合格水準		
選定期間	選定件数	中止 (未出荷 など)	応答待 件数	試験確 定有効 件数	試験完了 件数	判定待ち		合格判定	不合格	調査中
総計	46	1	5	40	15	6	9	0	0	
(前月総計)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

市場借上試験 計	26	1	3	22	9	1	8	0	0
第1四半期	14	1	1	12	9	1	8	0	0
第2四半期	12	0	2	10	0	0	0	0	0
第3四半期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4四半期	0	0	0	0	0	0	0	0	0

市場買上試験 計	20	0	2	18	6	5	1	0	0
第1四半期	20	0	2	18	6	5	1	0	0
第2四半期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3四半期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4四半期	0	0	0	0	0	0	0	0	0

合格	不合格	調査中
9	0	0

書類審査	選定件数	中止 (退会 など)	応答待 件数	審査確 定有効 件数	審査完了 件数	判定待ち	判定結果	
							問題なし	問題あり
	20	1	5	14	9	2	7	2

事務局だより

● 会員名簿（2015年5月～7月）

新入会員

会 員	会員番号	会社名	国 名
海外正会員	3640	Alcatel-Lucent IP R&T	USA
海外正会員	3644	Beseye Cloud Security Co., Ltd.	CHINESE TAIPEI
海外正会員	3659	COLEBROOK BOSSON SAUNDERS LTD	U.K.
海外賛助会員	3647	Compliance Certification Services (Shenzhen) Inc.	CHINA
海外賛助会員	3669	KES Co., Ltd.	KOREA
海外賛助会員	3656	Lab-T, Inc.	KOREA
海外正会員	3660	Lorom Industrial Co., Ltd.	CHINESE TAIPEI
海外正会員	3657	OXTI CORPORATION	CHINESE TAIPEI
海外正会員	3642	PNY TECHNOLOGIES, INC. -Storage Solutions & NewProducts Division	USA
海外正会員	3651	Skyport Systems, Inc.	USA
海外正会員	3653	Spacelink Corporation	KOREA
海外正会員	3650	Spectra Logic Corporation	USA
海外正会員	3652	TP-LINK Technologies Co., Ltd.	CHINA
海外賛助会員	3648	UniLab (Shanghai) Co., Ltd.	CHINA
海外正会員	3665	zSpace, Inc.	USA
海外正会員	3646	ZUNIDATA SYSTEMS INC.	CHINESE TAIPEI
国内正会員	3655	アロットコミュニケーションズジャパン株式会社	JAPAN
国内賛助会員	3649	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	JAPAN
国内正会員	3643	NTT データ先端技術株式会社	JAPAN
国内正会員	3664	亀通株式会社	JAPAN
国内正会員	3638	株式会社日本 HP	JAPAN
国内正会員	3637	株式会社ワイズ	JAPAN

退会会員

会 員	会員番号	会社名	国 名
海外正会員	1176	CrossRoads Systems, Inc.	USA
海外正会員	3375	Gemtek Technology Co., Ltd.	CHINESE TAIPEI
海外正会員	3616	Lynx Innovation Ltd	CHINA
海外正会員	2892	Oracle/Acme Packet	USA
海外正会員	3480	POINT MOBILE CO., LTD	KOREA
海外正会員	3123	WORLDVIEW TECHNOLOGY CORP.	CHINESE TAIPEI
国内正会員	1198	オンキヨー株式会社	JAPAN

社名変更

会 員	会員番号	会社名	国 名	旧社名
海外正会員	2276	Artesyn Product Testing Services	USA	Artesyn Embedded Computing Product Testing Services
海外正会員	2856	Burroughs, Inc.	USA	Burroughs Payment Systems Inc.
海外賛助会員	3177	Centre Testing International Group Co., Ltd.	CHINA	Centre Testing International (Shenzhen) Corporation
海外正会員	2033	DASAN Network Solutions, Inc.	KOREA	DASAN Networks, Inc.
海外賛助会員	243	International Standards Laboratory Corp.	CHINESE TAIPEI	International Standards Laboratory
海外正会員	2152	Lantronix Inc.	USA	Lantronix
海外正会員	3214	Lite-On Technology Corporation	CHINESE TAIPEI	LITE-ON IT Corporation
海外正会員	1750	LIWANLI Innovation Co., Ltd.	CHINESE TAIPEI	Carry Technology Co., Ltd.
海外正会員	3398	Lookingglass Cyber Solutions	USA	CloudShield Technologies, Inc. an SAIC company
海外正会員	3362	Newline Interactive Inc.	CHINESE TAIPEI	Newline Interactive
国内正会員	825	NEC ネットワーク・センサ株式会社	JAPAN	株式会社ネットコムセック /NetComSec Co., Ltd.
国内正会員	3247	ソフトバンク株式会社	JAPAN	ソフトバンクモバイル株式会社 /SOFTBANK MOBILE Corp.
国内正会員	312	ミナトホールディングス株式会社	JAPAN	ミナトエレクトロニクス株式会社 /MINATO ELECTRONICS INC.
国内賛助会員	1370	ラボテック・インターナショナル株式会社	JAPAN	フルノ・ラボテック・インターナショナル株式会社 /Furuno Labotech International Co., Ltd.

お願い：会社名等を変更された場合は、ウェブサイト内の「様式9 変更届」をご提出ください。

● VCCI 2015 年度スケジュール

<p>4月</p> <p>VCCI測定技術者基礎コース</p>	<p>5月</p> <p>VCCI測定技術者研修会 テクノフロンティア出展</p>	<p>6月</p> <p>VCCI通信ポート伝導妨害波測定コース VCCI事業報告会 VCCIだより No.117 発行</p>
<p>7月</p> <p>VCCI運用研修コース VCCI 1GHz超放射妨害波測定コース アニュアルレポート発行</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p> <p>VCCI測定技術者基礎コース VCCI測定技術者研修会 VCCIだより No.118 発行</p>
<p>10月</p> <p>VCCI測定技術者研修会 VCCIアンテナ校正・NSA測定コース</p>	<p>11月</p> <p>VCCI 1GHz超放射妨害波測定コース VCCI 30周年記念行事</p>	<p>12月</p> <p>VCCI運用研修コース VCCIだより No.119 発行</p>
<p>1月</p> <p>VCCI規程説明会・技術シンポジウム</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p> <p>VCCIだより No.120 発行</p>

● 適合確認届出状況（2015年5月～7月）

機器分類名		該 当 月	2015年5月			2015年6月			2015年7月		
		ク ラ ス	クラスA	クラスB	合 計	クラスA	クラスB	合 計	クラスA	クラスB	合 計
汎用コンピュータ（スーパーコンピュータ、サーバなど）			35	2	37	24	1	25	38	3	41
パーソナルコンピュータ	デスクトップタイプなど		0	11	11	0	20	20	1	26	27
	ノートタイプなど		0	23	23	0	28	28	2	59	61
	パームトップタイプなど		0	1	1	0	3	3	0	4	4
その他コンピュータ（オフコン、ミニコン、ワークステーションなど）			3	3	6	1	0	1	7	4	11
周辺装置	補助メモリ（記憶装置）		18	24	42	13	26	39	10	14	24
	プリンタ（印刷装置）		3	8	11	4	16	20	2	7	9
	表示装置（液晶、CRTディスプレイなど）		10	57	67	20	78	98	20	42	62
	入出力装置（上欄の補助メモリ装置、プリンタ、表示装置を除く入出力装置）		4	26	30	1	21	22	1	34	35
	汎用端末装置（ディスプレイ・タイプライタ端末など）		1	0	1	0	1	1	0	3	3
	専用端末装置（POS、医療用、金融・保険用など）		25	5	30	14	4	18	3	1	4
	その他の周辺端末		3	33	36	5	23	28	10	32	42
複写機			1	0	1	1	3	4	2	2	4
通信装置	電話装置（ファクシミリ、電話機、ボタン電話装置、PBX装置など）		4	0	4	2	5	7	1	3	4
	回線接続装置（変復調装置（モデム）、デジタル伝送装置、DSU、ターミナルアダプタなど）		1	8	9	1	2	3	1	8	9
	LAN関連装置（局用交換機など）		51	26	77	68	8	76	42	24	66
	その他の通信装置		9	17	26	24	7	31	13	9	22
その他（デジタルカメラ、ナビゲータ、玩具、MP3プレーヤーなど）			3	12	15	16	12	28	12	25	37
計			171	256	427	194	258	452	165	300	465

● 測定設備等の登録状況

測定設備等の最近3か月の新規登録分を以下に示します。

ここに掲載されているものは、原則として登録者から掲載希望があったもののみです。

全設備はウェブサイトに掲載しています。

新規登録測定設備一覧 (2015年5月～7月)

No	会社名	設備名	3 m	10 m	30 m	暗 3m	暗 10m	登録番号	有効期限	設備所在地	問い合わせ先 TEL
11023	KOSTEC Co., Ltd.	Semi-Anechoic Chamber	-	-	-	-	○	R-4202	2018/5/17	28 406-gil sejaro, Hwaseong-si Gyeonggi-do, Korea	82-31-222-4251
11070	The First Research Institute of Telecom. Tech. TFTX Laboratory	The First Research Institute of Telecom. Tech. TFTX Laboratory	-	-	-	○	-	R-4219	2018/4/26	Pingjiang Road No.8, Shanghai, China	86-13671966320
11073	The First Research Institute of Telecom. Tech. TFTX Laboratory	The First Research Institute of Telecom. Tech. TFTX Laboratory	-	-	-	-	-	G-838	2018/4/26	Pingjiang Road No.8, Shanghai, China	86-13671966320
11104	SP Technical Research Institute of Sweden	SP Denmark A/S-G	-	-	-	-	-	G-842	2018/4/26	A.C.Meyervaenge 15, Copenhagen SV, Denmark	45-27833428
11139	Intertek Testing Services Ltd., Shanghai	EMC Lab	-	-	-	○	-	R-4243	2018/4/26	B1. No.86, 1198 Qinzhou Road (North), Shanghai, China	86-21-61278269
11140	Intertek Testing Services Ltd., Shanghai	EMC Lab	-	-	-	-	-	C-4723	2018/3/15	B1. No.86, 1198 Qinzhou Road (North), Shanghai, China	86-21-61278269
11141	Intertek Testing Services Ltd., Shanghai	EMC Lab	-	-	-	-	-	T-2252	2018/4/26	B1. No.86, 1198 Qinzhou Road (North), Shanghai, China	86-21-61278269
11142	Intertek Testing Services Ltd., Shanghai	EMC Lab	-	-	-	-	-	G-845	2018/3/15	B1. No.86, 1198 Qinzhou Road (North), Shanghai, China	86-21-61278269
11143	UL International Singapore Pte Ltd	Radiated Emission 10m Chamber	-	-	-	-	-	G-846	2018/5/17	20 Kian Teck Lane Singapore 627854	65-68764625
11179	TUV Rheinland (Guangdong) Ltd.	TUV Rheinland (Guangdong) Ltd. EMC laboratory	-	-	-	-	-	C-4735	2018/4/26	No,102, 1F of Southwest and No.205, 2F of West Warehouse Building, No.767 Tianyuan Road, Tianhe District, Guangzhou, Guangdong, China	8620-28391179
11203	三菱電機株式会社	長崎電波暗室	-	-	-	-	-	G-865	2018/5/17	長崎県西彼杵郡時津町 浜田郷 517-7	095-881-0070
11205	York EMC Services, Grangemouth	York EMC Services, Grangemouth	-	-	-	○	-	R-4258	2018/5/17	York EMC Services, Unit 1, Grangemouth Technology Park, Earls Road, Grangemouth, FK3 8UZ, Scotland, UK	44-1324-469000

R：電界強度測定設備 C：電源ポート伝導妨害波測定設備 T：通信ポート伝導妨害波測定設備 G：1GHz 超放射妨害波測定設備

No	会社名	設備名	3 m	10 m	30 m	暗 3m	暗 10m	登録番号	有効期限	設備所在地	問い合わせ先 TEL
11206	York EMC Services, Grangemouth	LAB 2	-	-	-	-	-	C-4741	2018/5/17	York EMC Services, Unit 1, Grangemouth Technology Park, Earls Road, Grangemouth, FK3 8UZ, Scotland, UK	44-1324-469000
11207	York EMC Services, Grangemouth	LAB 2	-	-	-	-	-	T-2264	2018/5/17	York EMC Services, Unit 1, Grangemouth Technology Park, Earls Road, Grangemouth, FK3 8UZ, Scotland, UK	44-1324-469000
11208	York EMC Services, Grangemouth	LAB 1	-	-	-	-	-	G-866	2018/5/17	York EMC Services, Unit 1, Grangemouth Technology Park, Earls Road, Grangemouth, FK3 8UZ, Scotland, UK	44-1324-469000
11209	BTL Inc.	CB08	-	-	-	○	○	R-4259	2018/6/28	No.68-1, Ln. 169, Sec. 2, datong Rd., Xizhi dist., New Taipei City 221 Taiwan	886-2-26573299
11210	BTL Inc.	CB11	-	-	-	○	-	R-4260	2018/6/28	No.68-1, Ln. 169, Sec. 2, datong Rd., Xizhi dist., New Taipei City 221 Taiwan	886-2-26573299
11211	BTL Inc.	C05	-	-	-	-	-	C-4742	2018/6/28	No.68-1, Ln. 169, Sec. 2, datong Rd., Xizhi dist., New Taipei City 221 Taiwan	886-2-26573299
11212	BTL Inc.	C05	-	-	-	-	-	T-2265	2018/6/28	No.68-1, Ln. 169, Sec. 2, datong Rd., Xizhi dist., New Taipei City 221 Taiwan	886-2-26573299
11213	BTL Inc.	CB08	-	-	-	-	-	G-867	2018/6/28	No.68-1, Ln. 169, Sec. 2, datong Rd., Xizhi dist., New Taipei City 221 Taiwan	886-2-26573299
11214	BTL Inc.	CB11	-	-	-	-	-	G-868	2018/6/28	No.68-1, Ln. 169, Sec. 2, datong Rd., Xizhi dist., New Taipei City 221 Taiwan	886-2-26573299

R : 電界強度測定設備 C : 電源ポート伝導妨害波測定設備 T : 通信ポート伝導妨害波測定設備 G : 1GHz 超放射妨害波測定設備

東京まち歩き

近ごろ「まち歩き」がブームである。中高年の方たちが、小旅行と称して、身近な街の散策を楽しんでいる。テレビの「ちい散歩」や「ゆうゆう散歩」の影響だろうか。

かく言う私も、街歩きにはまっている一人である。私の場合は、このテレビブームの以前より、一人街歩きが好きで、学生時代より、一人でフラフラしながら街を歩き、何か面白い処はないかとキョロキョロして歩いていた。

最近のお気に入りには東京下町散歩である。先日、深川から月島を昔の仲間であるおじさん達 7名で散策を楽しんできた。

清澄白河駅に集合し、寛政の改革を実施した白河藩主松平定信のお墓のある霊巖寺(れいがんじ)や紀伊国屋文左衛門のお墓のある成等院(じょうとういん)などを見学し、江戸時代の有名人を身近に感じる事ができた。また、この清澄白河は最近話題のコーヒーのニューウェーブの店舗が数多く出店しており、その中の代表的な店舗である「ブルーボトルコーヒー」に立ち寄り一服し新しい時代の流れを体験し、昼食は深川めしを食べ地元の意味を堪能した。その後、江戸勸進相撲発祥の地で

ある富岡八幡まで歩き、有名な雷電為右エ門の碑や歴代横綱力士碑などを見学し、そこにある巨人力士の手形・足形碑を眺め、如何に大きな体の力士だったのかを知る事ができた。後半には、越中島から月島に渡り、石川島にある高層マンション群の一角にある、パリ広場を訪れた。セーヌ川と隅田川が友好河川の関係にあり、東京とパリが友好都市であるとの事から、ここにパリ広場を設け、フランスのシラク元大統領から贈られた3本のマロニエの木が植えられている。この広場に立ち隅田川を眺めていると、パリのセーヌ川に浮かぶ、シテ島の先端に立っているような雰囲気に入る事ができる。最後に、月島もんじゃストリートにあるもんじゃ焼き屋に立ち寄り打ち上げを兼ねた反省会?を行い楽しい一日を過ごしてきた。

東京の下町には、身近な場所でも行っていない場所がまだ数多く残っている。このような江戸・明治・大正・昭和の4つの時代を感じさせる名所・旧跡を訪ね、その場所の味を楽しみ、時代の風を感じ、歴史に思いを馳せる事ができる下町散歩をこれからも楽しみたいと思っている今日この頃である。(N.T)

無断複製・転載を禁ず

	VCCI だより	No.118 (2015. 10) 非売品
	発行 2015年9月20日 編集発行 一般財団法人VCCI協会 〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル7階 TEL 03-5575-3138 FAX 03-5575-3137 http://www.vcci.jp	